

新年のご挨拶

一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
会長 藤森義明



新年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

今年は、いよいよ電力小売自由化がスタートします。それに合わせ、各家庭がエネルギーに関心を持ち、居住快適性、経済性を求めたエネルギーマネージメントが本格化してくると思います。COP21においても、新たなCO₂削減目標が設定され、日本にとっては、民生用(家庭用)分野における化石燃料由来電力の消費抑制が課題となります。一方で、昨年は、国内人口の減少に伴う空き家問題も大きくクローズアップされました。その結果、省エネ性に優れた住宅ストックの形成が急がれることとなり、政府による住宅省エネポイント制度もその一翼を担いました。消費者の住居への関心も高まり、新築のみならず、既存住宅リフォームが充実期を迎えております。

このような状況を受け、建産協では、住宅リフォームの推進活動を展開してまいりました。まずは、「戸建住戸は20年で評価ゼロ」を解消すべく、設備などが更新された住宅などでは、省エネ性向上を資産価値化することを目指しております。躯体評価に加えて「設備インスペクション」の手法を開発し、すでに実棟での実証実験も行いました。新たな住宅価値評価は、金融機関や住宅関連団体からの期待も高く、市場での実活用に向けた準備を進めてまいります。ストック住宅の価値評価が正しくできることで、消費者の「家を良くする」への関心が高まり、欧米に比べて遅れをとる中古住宅流通の活性化につながります。また、消費者のリフォーム意欲を阻害する各種規制についても、昨年度は、内閣府規制改革委員会へ緩和提言を行い、現在も関係省庁にて検討を進めていただいております。さらに、一般消費者にリフォームの良さを正しく理解いただくための活動として、「リフォームで生活向上プロジェクト」に積極参画し、関連団体との協働にて、昨年10月より共通イベントを開始しております。建産協では、消費者に親しみを持ってもらうべく、「リフォームの歌」を作り、当イベントの公式ソングといたしました。

また、建産協では、業界製品の国際標準化にも注力しております。我国の優れた技術や製品が、世界で認められるために、国際規格の重要性が高まっています。日本で広く普及している「温水洗浄便座」や、世界的に外装材として普及が高まっている「WPRC・木材プラスチック再生複合材」など、IEC、ISO それぞれの分野にて国際規格化を進めており、昨年には、関係各国の賛同を得て、NP提案(国際規格造りの承認)に成功しました。今年は、引き続き、国際規格の成立に向けて、関係各国との協議を精力的に進めてまいります。

また、建築業界で広く活用されております「カタラボ」ですが、昨年より、ユーザーからの検索アクセス数が約5,000万ページの状況が続いております。また、参加企業数も361社へ増加し、充実度が増しております。昨年は、ユーザーアンケートを実施して、その中からご希望の高かった検索機能の向上や、また市中で使われています各種建築系システムとのアクセスも実現すべく、カタラボシステムへの新たな投資を行いました。今年以降、より検索性などの利便性が向上するカタラボにぜひご期待ください。

本年も、建産協への変わらぬご支援、ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。